

## 2. 人材育成

### 【1】「実践的防災まちづくりコーディネーター養成講座」(通称養成講座)の開催

だるまの一つの活動として、地域防災活動の中核者やリーダーを育てる目的で、神奈川大学主催、防災塾・だるまが共催する「エクステンション講座」(「実践的防災まちづくりコーディネーター養成講座」、通称「養成講座」)を2006年に立ち上げ、毎回30名以上が参加して継続してきました。

きっかけは、阪神淡路大震災を教訓に地域防災の重要性が認識されたことでした。第1回養成講座2006年では「減災に取り組む防災まちづくり」をテーマに、子育て支援、要援護者対応、ボランティア活動、歴史的な防災対策、情報ネットワーク、先進地区の活動を学びました。



その後令和元年の第14回まで行われましたが、東日本大震災、熊本地震、西日本豪雨災害や巨大台風災害などのこれまでにない大きな自然災害が相次いで発生したため、関心が高まり、新たな方向性を模索しながら進めてきました。

\*年度別テーマは20ページ参照

当講座には防災全般の幅広い内容が要求されるため、講座の企画、講師選定、運営を担当する会員で構成された「養成講座運営委員会」を開催し、学習の一環としてきました。新規受講者のほか会員も参加し、交流を通して各人の地域防災能力を底上げしてきました。

養成講座は当初1講座10日間、その後2講座6日間とし、参加費は5千円と低く抑え、参加しやすくしました。収支が合うように会員の講師の方々にも協力をいただいています。交流やワークショップも取り入れ、「ちょっと役立つ防災豆情報」も加えました。講座終了後、毎年数名が入会し、会員増につながってきました。

毎回の養成講座後には、横浜ランドマークタワー25階での「絆サロン」で雑談したり、全講座終了時の懇親会で仲間づくりをしました。また、横浜市及び神奈川県防災センターの見学会などを行い、親睦を深めてきました。



会員を増やすため、チラシを作成し配布しましたが効果は薄く、ハードルの高さを感じています。今では口コミでの募集を第一にしています。

2020年は、新型コロナ禍で教室に集合する密を避けるため、中止としました。

2021年は神奈川大学の講座がみなとみらいに移転されたため、「新時代の防災力向上セミナー」を3日間6テーマで開催し、オンライン講座の幕開けになりました。

### 【2】発災直後の防災ゲーム J-DAG と防災カルタの開発と普及

#### ① 防災ゲーム

会員の片山さんが開発した防災ゲームには、「J-DAG」「防災めぐり」「ZAG」があります。これらのゲームは、防災への取り組みを楽しみながら身につけられます。

## 養成講座のテーマ

	メインテーマ	主なポイント
2006 (H18)	人的ネットワークによる 地域防災力の向上	まちづくり総論、行政の防災対策、神戸からのメッセージ-松山順三氏（神戸市）、防災まちづくり-子育て支援、要援護者支援、ボランティア活動、歴史的な防災対策、情報ネットワーク、先進地区や拠点活動事例
2007 (H19)	人的ネットワークによる 地域防災力の向上	地域の地盤環境、災害時の要援護者対策（自助、共助、公助）、実践的まちづくり、防災まちづくり討論
2008 (H20)	人的ネットワークによる 地域防災力の向上	自助、共助、公助を中心とした講座、防災拠点づくりの実践と課題、地域、兵庫県の学校防災教育
2009 (H21)	人的ネットワークによる 地域防災力の向上	新潟県中越地震の教訓と防災教育、防災ゲームを楽しむ、人的ネットワークの構築、皆で語ろう
2010 (H22)	避難所運営に係わる実践 力の向上	新潟県中越地震・中越沖地震の教訓と避難所運営に学ぶ 避難所運営を体感する、避難所運営ゲーム（HUG）
2011 (H23)	東日本大震災から学ぶ 防災（減災）まちづくり	被災地の叫び！岩手県山田町からの報告、クロスロードゲーム、行政の新たな役割と課題を分析
2012 (H24)	地域にいかす「防災・減 災」知識と知恵を学ぶ	東日本大震災にどう備えるか、東日本大震災の被災状況と復興、女性の視点を地域防災の力に、防災クイズ
2013 (H25)	地域にいかす「防災・減 災」知識と知恵を学ぶ	首都圏大地震の被害規模とひっ迫性、命に関わる発災直後の1時間について考える、被災地から学ぶ
2014 (H26)	防災・減災の考え方と対 応策を学び、地域の防災 力を高める	被災時に役立つ隣近所の助け合い・見守り、災害医療体制、要援護者対策、自己紹介と地域の情報交換、各種の防災ゲーム
2015 (H27)	防災の実践事例を学び、 地域力で生き延びる	新しい神奈川県の地震被害想定調査の結果、災害医療・健康の専門家から学ぶ、横浜市危機管理センターの機能、地域ケアプラザ 地域防災支援
2016 (H28)	犠牲者ゼロを目指す地域 防災の進め方	発災直後の取組み事例、防災まちづくりの進め方、熊本地震に学ぶ。マンション住民と事務所を取り込む
2017 (H29)	防災の最新知識と地域防 災実践事例を学ぶ	都市火災の恐ろしさ、マンション防災、女性は防災のスペシャリスト、防災意識、共助等6グループ討議
2018 (H30)	防災・減災は地域の取組 みが決めて！：その具体 的進め方	神戸市鷹取中学校近藤校長の生々しい避難所運営、大規模災害時に重要な自助・共助を促進、高齢者・障害者を支える、ちょっと役立つ防災豆知識
2019 (R1)	「防災・減災の取組み： その具体的進め方！」	大学と地域が連携した安全な避難、災害時の要配慮者トリアージ、防災訓練から発災対応訓練へスキルアップ
2020 (R2)	新型コロナ禍で中止	
2021 (R3)	新時代の防災力向上 (オンライン講座)	災害時でも自宅で10日間生活するノウハウ、発災から1時間以内の救出をめざす、自助共助公助の統合

本番の大災害時に共に生き残ってもらおうとするものです。

大災害時に多くの犠牲者が出るのは発災後の1時間以内です。



J-DAGは(Just-Disaster Action Game)「発災直後の行動ゲーム」で、自治会等の地域で発災直後の1時間を、リーダー不在でもそこにいる人達が連携して防災資機材を駆使しながら、災害事案に対処しながら犠牲者を出さないように「1時間でより良い判断と行動をして対処する」リアルタイムゲームです。

このゲームは片山さんの自治会の全エリアで「不意打ち訓練」として、シナリオを全く知らない住民参加者がトランシーバーを駆使して対処している訓練で、他の地域へ広めるべくゲーム化し、自治会館や体育館などで体験できるようにしたものです。

・J-DAGを初めて行くとゲームであってもパニックになりますが、災害の場面を変えて2度目に体験するゲームでは、見違えるほどの対処行動ができるようになります。J-DAGにより、人のスキルアップだけでなく、防災体制や防災資機材のあり方も検証でき、犠牲者減少につながります。

## ②「防災めぐり」

「坊主めぐり」をもじったネーミングの「防災めぐり」は、数人程度がテーブルを囲んで災害時の悩ましい事象について意見交換しながら防災を学ぶゲームです。

このゲームにはカードバージョンとパワーポイントバージョン、そして大人バージョンと子供バージョンがあります。子供が防災に目覚めると、



その両親家族に波及し、さらには地域へと広がる可能性があるため、子供バージョンがお奨めです。

J-DAGと防災めぐりは「だるま」で広く展開されています。

## ② K-ZAG

「絆づくりと安否確認ゲーム」であり、これも片山さんの自治会での訓練で実行していることをゲーム化したものです。かなり以前には、民生委員や自治会の班長が安否確認を行っていましたが、時間が掛かることに加え、確認担当者が不在だと安否確認に漏れが生じる問題がありました。そこで、その時に在宅している全住民が各々どこでも5軒の安否を確認して報告するものです。この時、各家庭に配布してある「防災豆知識カード」をお互いに交換します。この際「私のカード」はこんな内容です、あなたのカードはどのような内容ですか？と防災の知識が得られながら会話が出来、顔の見える関係が醸成されます(本番災害時は「災豆知識カード」は使いません)。この方法により漏れ

がなく短時間で安否確認ができるようになりました。この方式を体験できるようにゲーム化したのがK-ZAGです。



## ③ J-DAGの普及と波紋

・講座や訓練の中で[J-DAG]が31か所で行われ普及してきました。神奈川大学、城西大学、横浜市民防災センター、相模原マイスタークラブ、栄区役所、大和市、鶴ヶ島市、大井町、松田町、開成町、上大井自治会、地域ケアプラザ(六角橋、中野、小菅ヶ谷)、南足柄中学校、葉山町立一色小学校と広域に広がっています。